



平成二十二年度のがまの油売り口上講座(全4回開催)は申し込み多数のなか四十名が受講生となり、うち三十四名に終了証が授与されました。その中に、仙台市から毎回高速を飛ばして参加し、すでに口上をあらかじめ披露するまでに急成長を遂げたつわものがいた。その人の名は「秋山正信」さん。

# 仙台からのチャレンジ

宮城県仙台市 秋山正信

「こんな面白いものがあつたのかあ〜！」定年を控えて何かやろうと思っていた私にとって、古河の桃祭りで見たがまの油売り口上はびっくりでした。ホームページを見ると皆さん実にいきいきして楽しそうです。「こりやく仲間になるしかない！」と早速メールしたら、すぐに世話人の泉さんから講習会の案内をいただきました。

小町の館は仙台から遠く朝5時の出発は大変ですが、高速道路千円は幸いです。それに、口上を喰りながら行くと遠距離の運転も苦になりませんね。

講習会では大世話人の佐藤さんによる迫力の

口上実演、林会長の講義やテクニク伝授など、面白くもありためにもなり4回の研修はあつと言う間でした。特に研修生全員の前立って練習できたのは良い経験になりました。合間には秋田県の向こうを張った小町塚もしっかり見学しましたよ。

最終日は修了証書を片手に筑波山神社にお参りしました。真面目に通ったおかげでしょうか、この日は快晴の秋空の下で筑波山が迎えてくれました。境内奥の店で、お婆さんが口上士の卵とわかると、出世払いがまの置物をたいそう値引いてくれました。一人前になったらもつと大きなのを買いにいくからね。

今月には町内の敬老会で口上実演が決まっています、毎朝の散歩で飼犬相手に猛練習をしています。言葉に歴史を感じたり、間の取り方や紙の切り方等、実に奥が深いと思います。また、刀や垂幕・のぼり等、道具を一つ一つ用意していくのも楽しいものです。さあ、どんなデビューになるのか今から楽しみです。期待してください。宮城県には口上大会全国一になった先輩がいると聞き、早速連絡をとって意見交換しました。近くにも仲間がいることにとても心を強くしています。これから生きがいとして実績を重ね、東北の皆さんに喜んでもらえるよう精進するつもりです。またお邪魔しますので今度は手厳しくご指導ください。



## 新緑の筑波路めぐりハイキング(小田方面)

昨年に続き新緑の筑波路を歩きませんか？  
小田城跡を始め沢山の歴史遺産と、のどかな風景が楽しめます。ご家族・お友達も誘って一緒にどうぞ。

期 日：平成23年5月28日(土)

集 合：午前9:45

旧筑波鉄道 小田駅前(右の地図P)

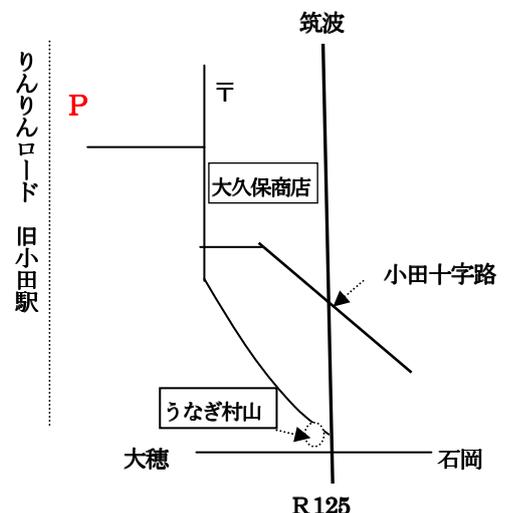
案内人：郷土史家 井坂 敦実 氏

持ち物：弁当、飲み物、タオル、帽子など

申込み：5月14日(土)締め切り

練習会支部の代表者または林会長まで

小雨決行・荒天中止



# わが人生の二本柱

萩原 義夫

四十年を越える勤めを終えて、妻と二人で横浜から龍ヶ崎のニュータウンに越して来たのは平成十一年四月です。もう仕事はしないつもりでした。何をするか、昨日から今日、今日から明日へと続くものを探しました。一つは畑、二つ目は知らない者同志の住むニュータウンですから長寿会の結成でした。一年近くの準備期間を経て、平成十三年十一月に発足しました。こうして畑と長寿会活動を柱とした生活が続きました。

ニュータウンの公園にある「たつのこ山」からは三百六十度の眺望が素晴らしいです。筑波山も良く見えます。筑波山と言え「がまの油売り口上」がある。どこかでやっていないかなと気になりました。

そんな折、新聞紙上でがまの油売り口上講習会のあることを知り、受講しました。「これは面白い。素晴らしい。一人だけではもったいない。」と長寿会の仲間を誘ったところ四人が賛同してくれ、次年度は五人で受講しました。

口上のセリフは覚えられるが演技は何処で習うのか。講座の後、つくばね会の存在を知り参加しました。今では懐かしい思い出となりましたが厳しかった宇野先生の指導、寺田会長をはじめ會員の皆さんが私にはお手本でした。

さて私は何時、何処でデビューするのか。ヒナの巣立ちと同じですね。最後は自分の力で飛び降りるのです。

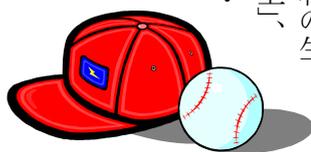
## がま口上に出会って

平成十八年三月、龍ヶ崎文化会館で行われた「長寿大学芸能発表会」出演が私のデビューでした。それからは古河の桃まつり、フラワーパーク、地元のとつこの祭り、公民館祭り、デイサービスセンター等都合さえつければ何処へでも行きました。これからも、都合がつけば何処へでも行きます。畑は七回程で止めました。今の私の生活は「長寿会活動」、「がま口上」、「孫の野球のコーチ(土・日・祝日)」が三本柱になっています。

### 愛猫ゆきと

### 練習の日々

荒井 和男



東京から茨城に越してきてはや三十数年仕事も終えこれからは楽しむぞと、アンテナを張っていたところ「筑波山がまの油売り口上」の募集が目にとまり、そうだと茨城といえば筑波山、筑波山と言え「がまの油売り」このフレーズ聞いたことがあ、早速応募、平成二十年に無事修了証書は頂きました。が、デビューまでに二年近くかかりようやく平成二十二年九月十九日、あすなるの里でデビュー

をはたすことができました。デビューまでは小町塾と、つくばね会に所属、月二回の勉強会では、先輩會員の前で口上を述べる機会を頂き、大変勉強

強になったと同時に、度胸を付ける最高の場でした。

自宅では、毎日散歩の途中神社に立ち寄っての練習です。散歩には必ず愛猫のゆきが一緒にトコトコついてきて、練習を始めると傍らでじっと見つめております。晴れた日には筑波の山並みが見え山に向かって さあさあ、お立ち会い、と口上を繰り返して、愛猫のゆきと楽しい練習時間を過ごしてきました。

デビュー一週間前のつくばね会では、私のデビューのために、先輩會員の皆様が、私が発表する口上を段落ごとに区切り、その都度、一時間余りかけて、細部にわたり適切で温かいアドバイスをして下さった事は、初陣を控えた自分にとって、本当にありがたく、この場をお借りして厚くお礼申しあげます。

デビュー当日は、つくばね会の清水深美先輩が同行くださり、会場のセッティング等々から御指導を頂き大変お世話になりました。口上開始時には三十度を超す暑い日で、紙を切る場面で、刃を抜いたところ、刃の片面にべつとりと口紅が溶け出しており、炎天下の中お客様から隠すのに、冷や汗をかいたことなど、お教えいただいた事の何十分の出来たかどうか反省しきりです。

今回はガンバルゾー！

これからも、林会長のお言葉にあるように、口上で一番大切なことは、「お客様と一体になった口上が出来るように」、「このことを、念頭に置き早く先輩會員皆様方の様に、一人前の口上が出来よう日々練習を重ねてまいります。



定年退職後、バラ色の人生を送りたいと思い、趣味をいろいろ増やしている。昨春秋、公民館で腹話術講座を見つけ、早速参加した。

開講一日目に人形の型紙を配布され、次回までに作るようになった。腹話術は人形が話しているように見せる芸で、練習するには人形が必要である。

写真に示す人形が手製の腹話術人形でパペット人形といい、フェルト、木綿靴下製で私が作ったものである。

人形の次は、呼吸法、発声法となる。人形の声は腹式呼吸で行い、欠かすことのできない基本です。大きく鼻から息を吸って口から出す。このとき口唇を動かさずに声を出さなければならぬので、まず、割箸を歯で噛んで、「あいうえお」などと甲高い声をだす。そして、人形の操作、術者が話している時、人形を前後、左右、そして「の」の字を描くように回す。これが基本動作である。また、話す言葉の長さによって、口を一回、二回、三回と開く。これらを練習して覚えれば、後は実践のみ、ガマ口上と同様である。違うのは、

ガマ口上のように話す内容の基本がないので、演じる内容をその都度、場所や話す対象に応じて作らなければならない。

講座の最後に、特別養護老人ホーム「やささ」に行き行って演じることとなった。自信はないが心臓

**腹話術 初鹿野 寛一**

多芸な会員を多く抱えるがま研にあっても、こんなに多才な人がかつて存在したのだろうか???今回はほんの一部を公開します



思わず頬ずりしたくなるパペットの勢ぞろい

強くやるしかない。当日、ホームの入居者やスタッフ計六十名の前で行った。緊張のあまり、喉がからから、でも何とか演じきった。また、みんなと歌を歌い、入居者の間に人形と入ってスキンシップを行った。こわばった顔の人も人形と触れ合うとにっこり笑顔、ほおずりをしたり、優しいまなざしとなった。人形との触れ合いは癒し効果があるという。その後、二回ほど実演する機会があったが喉のからからは相変わらずである。もっと練習だね。

腹話術とガマ口上、相乗効果を期待し、末長く続けていきたいと思っている。

日本百名山征服、東海道五十三次踏破を果した清水泰清さんの次なるチャレンジの始まりです。紙面の関係で今回はざわりだけを紹介します。

水戸街道は江戸時代に定められた日本の基幹道路（東海道などの五街道）に準ずる脇街道の一つで千住と水戸を結ぶ百十七キロです。

水戸を基点に千住までを十日で歩こうと、仲間十五名でスタートしました。江戸時代は二泊三日が標準というから、一日十五キロくらいを歩こうと思いました。

出発は平成二十二年五月二十九日。水戸駅南口「水戸納豆記念碑」に集合。

**備前堀**

水戸街道の基点に架かる橋を銷魂橋（たまげばし）という。旅の見送りの際に、魂が消え入りそうな思いで別れを惜しんだことから、この名がつけられたという。

この橋の一つ下流には開墾用水路として備前堀の開削に功績のあった伊奈（備前守）忠次の像がある。さらに五百メートル下流には水戸の生んだ十九代横綱「常陸山」にちなんだ常陸山橋が架けられている。

この後、吉田神社 薬王院 金山稻荷神社 街道筋の松並木、一里塚跡と迎る。

（この続きは、かわら版二十三号へ続く）

**水戸街道歩き旅**

清水 泰清

# 仏像を彫る

富山 繁雄

いという難問がまず立ちほだかります。

つづいて、順目・逆目が見分け

にくく逆目が彫りにくい素材↓

(地紋彫りを会得しないで進んで

しまった)

研げば余計に切れなくなる彫刻刀

↓(研ぎ方ができていない)

仏さまの顔でなく普通の人間の顔になってしまふ仏頭↓(「仏像の約束ごと」が理解できていない)：などなど難問の連続です。

なかでもやっかいなのは、「木を削るという、引算のみの造形」であるという点でしょうか。削りすぎを心配してなかなか先に進めません。

数々の難問に対して、那花先生は、体の半分、たとえば仏頭であれば、お顔右半分を少し彫り進めて教えてくれますので、彫刻刀の選び方や刃先の当て方、運び方などを注意深く見て覚えようと思います。しかし、「その時はわかったつもり」の繰り返して、十回教わってやつと一回分が身についたかなというのが実情です。

そんなこんなですが、昨年の十月に、県南生涯学習センター(土浦市)で開催された仏像彫刻同好会「睦」展に、「五寸の釈迦如来坐像」(額口までの寸法をいいます)出品することができました。今年、「九寸の聖観音立像」に挑戦中です。

仏像を彫るということは、「もともと木の中にいらっしやる仏さまを、木くずを払ってお迎えすること」だそう。無心に彫って、結果として「自然に手を合わせてしまうような仏さまをお迎えする」ことが目標です。

いま、書店の仏像に関するコーナーに、例えば

檀家からいただいたおはぎを、仲間とたらふく食べてしまった一休さん。「仏像」が食べたと言ひ張り、仏像の頭を叩いたら「食わん、食わん。」それでは、仏像を大きな鍋で煮たら「食った、食った。」

小学校での「一休さんのとんち話」が私と仏との初の出会いかなと思います。この衝撃的(?)な仏像との出会いから半世紀がたちました。

私は、石岡市在住の京仏師・那花定慶先生の仏像彫刻(木彫)教室(柏・月二回)に通い始めて丸四年になります。

教室では、大仏師・松久朋琳著「仏像彫刻のすすめ」をテキストに学んでいきます。最初は「地紋彫り」で、彫刻刀の運び方、木の扱い方を学ぶ大変重要なものです。地味で肩のこる作業の繰り返しに、早くも挫折の一手手前までいきました。挫折せずに済んだのは、それをやり遂げて先に進んでいる先輩や同じように苦戦している仲間がいたからだと思えます。

柏教室では、二十人ほどがそれぞれの段階で仏像彫刻に取り組んでいます。そして、仏足、仏手(握り手、開き手)・仏頭(地藏、釈迦如来、聖観音)と進んでいくのですが、テキストの写真(平面)をもとに立体を想像して彫らなければなら

川島康史著「らくらく彫れるかわいい仏さま」など、童子姿のかわいい仏さまの彫り方を解説した本がいくつかあります。単純化して取組み易く工夫されているので、「自分の仏さま」彫刻に挑戦されてはいかがでしょうか。

その際は、彫刻「刀」を使う故、お手元に血止めの妙薬!「がまの油」をお忘れなく。



木の中からお迎えした「釈迦如来坐像」

## 編集後記

今回の震災は、かわら版の発行はもとより、総会の開催や、実演の機会も断念せざるを得ない程に、我々にも影を落としました。被災地の方々のご苦労や悲しみには比べるべくもありませんが、困難の中にあっても心がぼつと温かくなる報道に接し、日本人に生まれたことを誇りに思えることも多々ありました。一日も早い復興を念じつつ。

会費納入(振込み)を宜しくお願いいたします。

編集子